

普及項目	養殖・流通
漁業種類等	養殖
対象魚類	マガキ
対象海域	八代海

## 県南地区でのマガキ養殖指導及び広域連携の取組み

県南広域本部水産課・吉川 真季

### 【背景・目的】

八代海では、アサリ資源の減少、ノリ養殖の不振、漁船漁業における水揚量の減少等により漁業者の経営は厳しい状況にある。このような中、県南地区の三角町、鏡町、芦北町、津奈木町、水俣市の5地先では、新たな収入源として、マガキの養殖に取り組んでいる。そこで、漁協及び生産者に対して養殖管理等について指導を実施することにより、マガキ養殖の安定生産と販売体制整備による地域振興に資することを目的とした。

### 【普及の内容・特徴】

#### (1) 同一手法による生残調査及び養殖管理指導

5地先において、生産者及び関係者により、令和元年（2019年）10～11月時点（脱貝前）での生残状況調査が実施された。結果は表1のとおりであった。

水産課は、各地先での調査の現地指導のほか、地先ごとの生残率、生残していたマガキの個数及び殻付重量から重量組成や出荷数量を推定し、前年度あるいは地区間で比較した結果を、当該漁期の販売計画及び販路開拓に反映させる基礎的な情報として、漁協や生産者へ提供した（図1）。

#### (2) マガキ種苗の共同購入における広域連携等に係る取組み

生産者からマガキ種苗の購入の連携について検討したいとの意見から、平成30年度（2018年度）から共同購入を試みており、水産課が4地先の連絡調整を行い、令和2年度漁期分の種苗についても同様に共同購入を行うこととなった。令和元年（2019年）11月25日に、宮城県から種苗の購入、福岡県を經由しトラックで搬入された種苗を、鏡町地先分を下した後、他の3地区分の種苗を別のトラックに積み替えて搬送、スムーズに導入することが出来た（図2）。

### 【成果・活用】

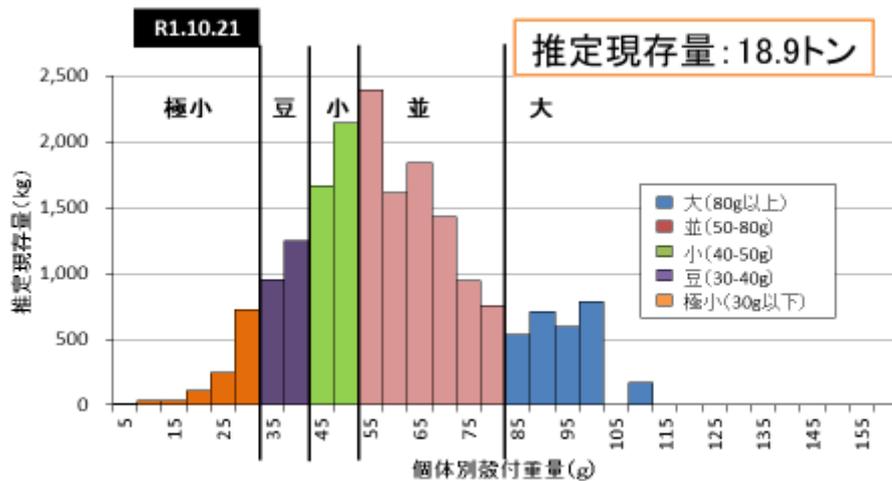
脱貝を行う前に調査を実施し生残状況を把握することで、その漁期の生産量の推定や販売計画等に役立てられた。また、各地先の沖出し時期の比較では、成長に大きな差が見られたため、前述の11月に導入した種苗の沖出しは、早期に行うよう指導した。

また、マガキ種苗の共同購入については、生産者からはコスト低減や来春の種苗の沖出しを早めることが可能となる等の感想が聞かれたが、体制づくりなどの課題も残っており、引き続き指導が必要である。

表1 各地先におけるマガキ生残調査結果

		ロープ 本数	生残率	規格外	豆	小	並	大
三角町	R1	4	36.2%	8%	12%	17%	49%	14%
	H30	4	45.9%	17%	6%	12%	42%	23%
	H29	3	23.1%	49%	31%	10%	11%	0%
鏡町	R1	7	30.8%	15%	12%	13%	40%	20%
	H30	5	33.7%	22%	22%	24%	30%	1%
	H29	10	28.0%	13%	16%	19%	38%	15%
芦北町	R1	2	52.8%	6%	12%	20%	47%	15%
	H30	4	17.0%	75%	23%	2%	0%	0%
	H29	6	33.7%	22%	30%	22%	25%	1%
津奈木町	R1	6	49.4%	23%	11%	16%	37%	13%
	H30	5	39.3%	99%	1%	0%	0%	0%
	H29	6	36.7%	64%	23%	10%	4%	0%
水俣市	R1	3	49.6%	31%	30%	22%	17%	0%
	H30	8	42.7%	78%	15%	6%	1%	0%
	H29	6	47.0%	49%	23%	16%	12%	0%

R1年度マガキサイズ組成(芦北町) ※重量ベース



R1 規格外:豆:小:並:大=6%:12%:20%:47%:15%  
 ※H30規格外:豆:小:並:大=75%:23%:2%:0%:0%

図1 マガキ生残調査から推定したサイズ別推定重量組成 (芦北町地先)



図2 マガキ種苗の共同購入